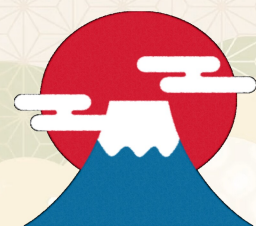




発行：自由ヶ丘地区
コミュニティ運営協議会
住所：自由ヶ丘3-12-11
TEL：32-5594 FAX：35-3250
メール：jiyuugaoka-cc@oboe.ocn.ne.jp
http://www.jiyuugaoka-cc.com/

自由ヶ丘人口調査
【令和7年11月30日現在】
世帯数 6,414世帯
人口 14,422人
男性 6,837人
女性 7,585人



謹賀新年



自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会
会長 浅倉 憲二

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、政治情勢の変化や猛暑、物価高と、何かと気に病むことが多い1年でしたが、本年は少しでも気が安らぐ年になってほしいと願うばかりです。

協議会としましては、現在策定中の第3次まちづくり計画を完成させ、本年から「みんながつながる、いきいきと住み続けたい自由ヶ丘」を目標に、自由ヶ丘のみなさんのために各種取り組みを行っていきたいと思っています。

必要なことや新たなことに積極的に取り組むとともに、これまで行ってきた良いものは守っていくというスタンスで役員一同頑張っていきますので、みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、自由ヶ丘のみなさんにとって本年が良き1年になりますようご祈念申し上げます。

ジェンダー平等推進会

アンちゃんから見たニッポン



北九州市立大学 准教授
アン・クレシーニ

ニッポン大好きアンちゃんに「どんなところが好きなのか？」
「どんなところが素晴らしいのか？」 アンちゃんの感じるところをそのまま伝えてもらいました。2時間たっぷりの講演に、参加者のみなさんは聞き入り、あっという間だった様子。その声をお伝えします。

○海外に行ったことのない自分にとって当たり前になっていた価値観や考え方を見直すいい機会になりました。（30代男性）

○固まった考え方ではなく、見方を変えて考えるようにしたいと思った。（60代男性）

○宗像市を愛してくださってありがとうございます。日本人でありながら日本の事をよく知らない自分が恥ずかしいです。もっと勉強します。（60代女性）

○多様性と寛容を教えてくれてありがとう。さすが言語学者！（60代女性）

○日本は「暮らしやすいが生きづらい」という言葉が印象に残った。（70代女性）

参加されたみなさんの熱いご意見を聞き、講演会を開催して良かったと感じています。今後もみなさんが足を運んでみたいと思う講演会を開催していきますので、ご期待ください！



自由ヶ丘小「みんなで地域を支え隊」

佐伯波瑠さん、森本華琉さん

地域の高齢者に関わっている人から「顔見知りになってほしい」と聞き、交流会やレクリエーションを企画し、課題を見つけては改善しながら、さらに絆を深められる内容を企画しています。企画して良かった！地域の活性化につながる協力ができた。

自由ヶ丘南小「つなげ！自由ヶ丘の絆」

～JND作戦（自由ヶ丘なかよし大作戦）～

井上菜穂子さん、今村太郎さん

「自由ヶ丘ってどんなまち？」を探っていくと、優しい人が多い素敵なまちだけど、高齢化が進み、関係が希薄になっているという課題を知りました。じゃあ、僕たちが盛り上げたい！と思い、JND作戦を立ち上げ、文化まつりに参加したり、イベントを企画して絆を深める作戦です。僕らが、次の世代に繋げていく！

自由ヶ丘中学校「セゾン・ド・ムナカタ」

プロモーションプロジェクト

大庭柚生さん、後藤沙綾さん

昨年の先輩が開発した「セゾン・ド・ムナカタ」をプロモーションするために、ふるさと納税、イベント企画、広報、クラウドファンディングなどを通して、ふるさと自由ヶ丘を世界に発信することで地域貢献ができと思っています。僕たちも地域の一員だという自覚が持てた！自由ヶ丘を知ること、もっと好きになった！



若浦輝廣さん（コミュニティ運営協議会 役員）

交流会などに参加して元気をもらいました！地域の高齢者とのつながりを作るために色々な活動を企画していて、その企画力はこれからの社会で生きていくうえで大切になると思います。

永見真二さん（コミュニティ運営協議会 役員）

自小のなかもり開放をはじめとする青少年育成部会の事業では、以前より子どもたちの参加が増えました。子どもが関わることで、その保護者も地域に目が向くようになってくれます。このような現象は、ふるさと学習があることで、子どもと保護者の目線の先に地域がしっかりと見えているのだと思います。

牟田貴美子さん（コミュニティ運営協議会 役員）

自由ヶ丘南小校区は、地域の関わりがたくさんあった地域なのですが、今は寂しくなっているということ、子どもたちが気づき、学習の課題として取り上げてくれたことがとても嬉しく、心強く思います。ふるさと学習を進める中で、子どもたちが住んでいるまちの課題に、地域を巻き込んで取り組もうとしている、子どもをまんやかにした活動にとっても期待しています。

今津理恵さん（コミュニティ運営協議会 役員）

まちづくりの中に子どもが参画することは、同じ目標に向かっている【同志】という感覚です。最初は指示待ちの状態でも、経験していくことで疑問を感じ、解決し、自信を付けていく「自分たちで考えて、自分たちで動く力」はまさに、主体的な学びだと思います。

北野雅英さん（自由ヶ丘小 保護者）

保護者という観点から見ると、子どもたちの中に「地域活性」、地域に支えられている、というキーワードがあらわれていることが分かります。また、子どもたちからの疑問の投げかけに、どうやったら応えられるかを地域の仲間と考え、学校と地域で取り組み、その中に子どもたちが関わっていくという仕組みは、どんどん夢を広げていくと実感しています。

白銀愛子先生（自由ヶ丘小 教諭）

ふるさと学習のカリキュラムを地域の方と一緒に作っていくことで、9年間でどんな子どもを育てたいかという目標が共有でき、子ども主体の授業を展開することができました。結果、子どもたちは、地域への愛着が深まり、進んで地域の活動に参加する。そこでの楽しさや自信を持つことで、挑戦できる自分へと成長していることを感じます。

福岡教育大学 伊藤克治教授（学園運営協議会会長）講演

○子どもたちが地域で積極的に活動していることが嬉しい→それを受けた地域の人にも嬉しいという【嬉しいの連鎖】が起きている。それが子どもたちのウェルビーイング（身体的・精神的に社会的にも良好で幸福を感じている状態）となっている。
○「失敗しても大丈夫、そこで気付けたことが素晴らしい」という考え方が学校・家庭・地域が共有できている。
○子どもとおとなの関係が【同志】おたがいさまで「学び合い」をしている。
○大人との関わりのみならず、小中学生同士の関わりもしっかりとできている。

まとめ

○自由ヶ丘という地域は、歴史は浅く、伝統的なものはありませんが、これから、子どもたちと一緒に「ふるさと自由ヶ丘」を盛り上げていけると確信しました。子どもをまんやかにしたふるさと学習の展開には、学園と地域がパートナーとして、対話を重ねながら、地域と共にある学校づくり・学園の子どもを核とした地域づくりを目指していけると考えます。